



栃木市

教育委員会だより



発行：栃木市教育委員会  
住所：栃木市万町9-25  
電話：0282-21-2467  
FAX：0282-21-2689  
Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp



栃木市  
マスコットキャラクター  
とち介

西方小学校 創立150周年式典



『誰一人 取り残さない教育の推進』

『第3期栃木市教育計画』 基本理念

希望に向かい 伸び伸びと個性を発揮し  
互いに認め合いながら より良い社会を築いていく  
‘とちぎ愛’ に満ちた人を育てます



# 栃木市教育ニュース

今年度、栃木市内の多くの小中学校で、節目の年を迎えています。今号の『栃木市教育ニュース』では、その記念行事の様子を市民の皆様にお知らせします。



大平南中学校 記念行事



国府北小学校 記念行事



藤岡小学校 記念行事



家中小学校 記念行事

## 今年度 節目の年を迎えた小中学校

- |               |                |                |                |
|---------------|----------------|----------------|----------------|
| 吹上小学校 (150周年) | 千塚小学校 (150周年)  | 国府北小学校 (150周年) | 大平南小学校 (130周年) |
| 藤岡小学校 (150周年) | 部屋小学校 (150周年)  | 合戦場小学校 (150周年) | 家中小学校 (150周年)  |
| 西方小学校 (150周年) | 真名子小学校 (150周年) | 大平南中学校 (40周年)  |                |

## 過去を知り未来を拓く～学校創立記念～

本市には本年度節目の年を迎えた小中学校が11校あり、中でも創立100周年を超える小中学校が10校と、そのほとんどが創立150周年と長い歴史を誇っています。また本市には、公立・私立の幼児教育を始め、初等中等教育、そして高等教育など多くの異校種が存在し、本市全体が教育学園都市といえるのではないのでしょうか。学校創立記念日は、子どもたちや地域の全ての方々が各々に刻み込まれた思いを振り返りながら祝う特別な日であり、各校には、次のような様々な意味が込められています。一つ目には、「歴史と伝統の尊重」です。自分が通う学校がどのような時期にどのようにして開校し、発展してきたかを振り返り、その歴史的な足跡を理解し、感謝し、愛校心と地域への愛着心を一層高める機会となっています。二つ目は、「学校コミュニティの結束」です。創立記念は、教職員、子どもたち、卒業生、そして地域社会など、学校に係わる様々な人たちが一堂に会し、コミュニティの結束を強化する機会となります。本市のどの学校も地域の方々の心強いご理解とご協力のお陰で子どもたちが日々健やかに育っています。今後もなお一層、地域の方々と共通の目標や価値観を共有し、協力関係をより深めていくことが不可欠と考えています。三つ目は、「未来への展望」です。自分たちの学校の歴史を振り返ると同時に、将来こんな学校になってほしいという展望を共有する場でもあります。そして、その目的を達成するために継続的で地道な努力が求められます。創立記念日は、そのような将来の姿を共有し、未来に向けて突き進む原動力を養う機会となります。四つ目は、「感謝と祝福」です。教職員、子ども、保護者、地域の方々など学校を支えてきた人たちに感謝の意を伝える機会でもあります。同時に、将来への期待や祝福も込められています。総じて、創立記念日は子どもたちや学校コミュニティにとって大切な日であり、母校の発展と未来へ向けてのコミットメント(公約)を再確認することが期待される大きな節目の年と言えるのではないのでしょうか。

教育長職務代理者 後藤 正人



# 教育委員の活動日誌

教育委員は、栃木市の教育の充実のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今号の『教育委員の活動日誌』では、教育委員が市内小中学校を訪問した際の様子を紹介し、今年6つの小学校と2つの中学校で実施しました。訪問先の学校では、子どもたちの元気な姿を見ることができました。

## 教育委員学校訪問

訪問した学校

大平中央小・栃木第三小・栃木東中・部屋小  
大平南中・真名子小・合戦場小・大宮北小



## 教育委員からのメッセージ

「教育委員の活動日誌」では、  
教育委員からのメッセージを掲載しています。  
今回のテーマは  
「地域と学校の在り方について！」です。

ある新聞の記事が心に残っている。定年間近の先生が、メーカーで出世した同級生に、代り映えない教師という職業を馬鹿にされたときに発した言葉「君はせいぜい〇〇を作れ、僕は人間をつくっている」先生は学問を教えるだけではない。子どもたちに人として生きていくために必要な様々なことを学ばせている。学校訪問に行くたびに思う。「人間をつくってくれて、どうもありがとう」

教育委員 福島 鉄典

「1人の子どもを育てるには1つの村がいる」  
このことわざを知っていますか？

かくいう私も子どもの頃地域の方や沢山の大人に見守られ助けて頂きながら育った1人です。何か私ができる事はないかと始めた朝の見守りパトロールも5年目になりました。毎朝1人1人の表情を見て時には声をかけることで気づけること、気づかされることがあります。家族は勿論、地域の方たちから見守られ安心して子育てできる、そんな地域を目指して私も努力していきます。

教育委員 大塚 裕子

毎朝愛犬との散歩で出会う小・中学生。みんな元気よく気持ちのいいあいさつをしてくれます。そして交通指導員の皆さんともニコリあいさつ。最後は校門で先生方にバトンタッチ。やはり子どもたちは家庭だけでなく、先生方、地域の方々の愛情で育てていくものだと思います。今では学校内外でいろいろと手助けをしてくださる地域の方々。とても身近に感じ感謝の気持ちで一杯です。

教育委員 西脇 はるみ

“いい学校はいい地域にある、いい地域はいい学校をつくる”それが分かるのが学校訪問です。学校により地域性があり関係は様々ですが、とちぎ未来アシストネットを含めた地域との関わりを伺うことができます。確かなことは、地域の中の多様な人々と、ひとつひとつの経験を積み重ねながら、子どもたちは心豊かにたくましく成長していることです。少子化で劇的に子どもの数が減っていますが、地域の中でのびのびと健やかに育む姿をあたたかい目で見守りたいです。

教育委員 舘野 知美

## 美術館が開館1周年を迎えました!

栃木市立美術館は、令和5年11月3日に開館1周年を迎えました。

昨年度中のキックオフプロジェクトを踏まえ、今年度はすでに3回の企画展と2回の収蔵品展を開催し、24,727人(令和5年11月末現在)の方に、ご来館いただいております。

現在は、4回目の企画展「写真家が捉えた昭和のこども」展と、当美術館が所蔵する市ゆかりの作家たちの美術作品による収蔵品展Ⅳを開催中です。(3月24日まで)

来年度以降も、年4回の企画展と収蔵品展を開催予定です。

市ゆかりの美術作家たちの作品はもとより、国内外の作品も展覧し、市民の皆様喜んでいただけるような様々な企画を開催してまいりますので、ぜひ一度ご来館ください。



栃木市立美術館  
TEL 0282-25-5300  
〒328-0016 栃木県栃木市入舟町 7-26

お決まりの教育三分割論、知育・徳育・体育からしてみると、美術などの芸術は当然、徳育に含まれるのでありましょう。

しかしながらこの徳育というのが何とも厄介なもので、偏差値の高い先生がいくら口角泡を飛ばしても、なかなか教えられるもんじゃありません。

草のなびきひとつで目覚めるのは傷心の人くらい、日常平穩の人は、おのが目ん玉で本物を見て心がハツとしなけりゃ、絵心が目覚めることなどまずありません。

お大尽様が多い栃木が大事にしてきた、歌麿さんやら刑部先生やらが蔵にごっそりとかいう美術館ができて一年。で初年度の参観者が一日に百人越え、と。常連さん確保の件はおくことにして、とりあえずいいアンパイの仰角で飛び立ったとってよろしいんじゃないですか。  
教育委員 林 慶仁

## 教育長通信～『君たちはどう生きるか』に寄せて～



「とにかく、この本を読んでみなさい。」かれこれ50年も前の中2の冬、卒業生を送る言葉のしめくりを巡って、ご指導くださっていた国語の先生と押し問答を繰り返していたときのこと。先生から手渡されたのが吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』でした。タイトルからしてかなり堅苦しい内容なのだろうとの予想に反し、中学2年生の男の子(通称コペル君)が、友人たちと学校生活を送る中で、いじめや貧困の問題をはじめ様々な出来事を経験し、悩んだり、考えたり、気付いたりするとともに、慕っていた叔父さんとのやり取りを通してものの見方や考え方を広げながら精神的に成長していく様子が等身大に描かれた、実に読みやすく、同時に色々なことを考えさせられる本でした。果たして、卒業生に贈る言葉として著者が本の扉に書き綴ったメッセージを…との、先生のご提案に前のめりで賛同することになったのは言うまでもありません。以下にその言葉を紹介します。

**たれもかれもが力いっぱい のびのびと生きてゆける世の中  
たれもかれもが「生まれてきてよかった」と思えるような世の中  
自分を大切にすることが 同時にひとを大切にすることになる世の中  
そういう世の中を来させる仕事が きみたちの行くてにまっている  
大きな大きな仕事 生きがいのある仕事**

実はこの本は昭和10年代、世の中が軍国モード一色に包まれていた頃、言論や出版の自由が著しく制限される中にもあっても、せめて次代を担う子どもたちには自由で豊かな文化やヒューマンリズムの精神の大切さを伝えておきたいと願い、山本有三先生が編纂された『日本少国民文庫(全16巻)』の最後の配本でした。途中山本先生が重い目の病に罹ってしまったため、大学の後輩でもあった吉野氏が山本先生の意志を受け継いで執筆に当たったのです。周知の通り山本有三先生は本市出身の文豪であり、長年にわたり本市の教育の根幹に先生の教えが据えられています。

初版から80有余年。めざましい科学技術の進歩に伴い、時代は大きな変革を遂げました。しかし、時代はいかに変わろうとも、この本は今なお全く色褪せることなく「人としていかに生きるべきか」を私たちに問い続けています。小中学生のみなさんに、是非とも手に取ってほしい一冊です!

教育長 青木 千津子

【編集後記】 “教育委員会だより 絆” は市民の皆様、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は  
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町 9-25  
電話: 0282-21-2467 FAX: 0282-21-2689 Email: kyoumu@city.tochigi.lg.jp